



にちりゅうしょご

ひさまつふつ

# 「日琉諸語オンライン辞書」の久松口

Hisamatsu variation of Miyakoan language in  
'Online Dictionary of the Japonic Languages'

藤田ラウンド幸世・カルリノサルバトーレ



第1集：久松口の名詞語彙など 530 語  
藤田ラウンド幸世・カルリノ サルバトーレ

2023 年 11 月 18 日発行

問い合わせ先： myaakufutsu@gmail.com

はじめに

藤田ラウンド<sup>さちよ</sup>幸世（横浜市立大学）

2012 年の 6 月に宮古島市の久松小学校を訪れて以来、久松の集落には長年お世話になっています。私は社会言語学の研究者として、久松小学校や久松中学校のような義務教育の中で、「みゃーくふつ（宮古語）」を教えることはできないかという研究課題をこれまで考え続け、実践をしてきました。

宮古語を学校で伝承するときの大きな壁の一つは、宮古語そのものが集落ごとに異なっている、つまり、宮古語の中に 30–40 近くの「宮古語方言」があると言えるくらい、語彙や発音が異なっていることで、宮古語という学校で使うための一冊の教科書を作ることができないということでした。

初めは久松小学校・中学校で調査を行いました。2015 年からは、久松集落のいろいろな方にお話を伺うことにしました。特に久貝の與那覇チヨさん、松原の仲間豊吉さんから、久松のことば、歴史、文化、生活について直接、継続的に教えていただく機会を得たことは幸運でした。

2019 年に「みゃーくふつの未来：消えゆく声、生まれる声」という 47 分のドキュメンタリー映画を制作し、この短い映像（13 分）をインターネットのユーチューブページ（YouTube「多言語で生きようプロジェクト」→「久松アルバム」）で公開しています。久松の私のお世話になった方々にインタビューに答えていただいている姿、2019 年度のハーリーの様子を中心にまとめました。

2022年の4月から約一年間、久松中学校の給食の黙食に「一日一語みゃーくふつ」を放送しました。当時の国語の先生、謝敷勝美先生と共に放送原稿を書いた時に、與那覇チヨさんと與那覇初江さんのご家族の方々に大変お世話になり、また、謝敷先生の研究授業で「かぐや姫」の久松口を訳し、読み上げる時には、長濱トモヨさんや久貝・松原自治会の方々にお世話になりました。こうした自治会の方々の全面的な協力を得られたことから、今回の「日琉諸語(にちりゅうしょご)オンライン辞書」の久松口の制作につながりました。

次世代の人たちも含め、誰もが、無料で使えるオンライン辞書に久松口を載せたいと思い、国立国語研究所「消滅危機言語の保存研究」(プロジェクトリーダー：山田真寛)の共同プロジェクト員の仲間として知り合ったカルリノ・サルバトーレ(大東文化大学)さんに協力をお願いしました。カルリノさんの辞書、「日琉諸語オンライン辞書 (<https://odjl.net>)」にすでに久松口の名詞語彙530語が掲載されていますが、今回、久松の集落の方々にお世話になりました返礼として、冊子の形にいたしました。

これからも、久松口を残すための取り組みへのご協力をお願いいたします。

「日琉諸語(にちりゅうしょご)オンライン辞書」

<https://odjl.net/hisamatsu.html>



## 久松 (Hisamatsu 沖縄県宮古島市平良字久松) に関する歴史・社会的背景

藤田ラウンド幸世 (横浜市立大学)

久松は、沖縄県宮古島市にある集落で、伊良部島に面する宮古島の西に位置する。宮古島内では、久松は「久松五勇士」の碑、久松の獅子舞 (<https://youtu.be/yrKX7LVrN4Y>)、また、宮古島市出身の歌手の下地イサムさんの出身地として知られている。以下、久松という集落の歴史、久松集落

の言語話者、久松の人口の3つの観点を軸に、久松の成り立ちと久松で話されてきた「みゃーくふつ（宮古語）」について考えてみたい。

## 1) 久松という集落名に関する歴史

現在の「久松」という集落の名前は、1898年（明治31年）に平良尋常小学校久松分教所が開校された時に、「久貝」と「松原」の集落の頭の漢字を組み合わせて使われたのが初めだと考えられている。

歴史上の宮古島の地域区分の変化を辿ると久松の地域性がわかる。現在から遡る形で紹介をすると、まず、現在の宮古島市は、宮古島、大神島、池間島、伊良部島、下地島、来間島の六つの島が2005年に統合されてできた「宮古島市」という自治体になった。それ以前は、平良市、城辺町、下地村、上野村、伊良部村、五つの市町村で、この時は、久松（久貝と松原）は平良市に区分された。

「久松」という名称が、初めて使われたのが1898年（明治31年）である。その前年度の明治30年代の宮古郡島の地図によると、現在の宮古島市の六つの島は、三つの「間切り（まぎり）」、すなわち、平良（ひらら）間切り、砂川（うるか）間切り、下地（しもじ）間切りに区分されていた。この三つの間切りの区分当時は、まだ「久松」という名称ではなかったのである。その理由は、久貝は下地間切り、松原は砂川（うるか）間切りと別々の区分に属していたからであろう（このような歴史的経緯を考慮したときに、久貝も松原も、独自のことばの発音や行事などがあり、久松とこの二つの集落を簡単に一緒ににはできないという理由がわかる）。

地名に関して留意したいもう一つの点は、一般的に、久貝と松原と別々の集落と考えられていたものの、地理的に隣り合わせであり、交流もあったことから、久貝と松原を一つと考え、地域の人たちはむしろ「野崎（のぎき=ただし、地元の人たちは、「ぬぎき」と発音）」と親しく呼んでいることである。つまり、久松口（ひさまつふつ）の他に、野崎口（ぬぎきふつ）と言うこともある。

## 2) 久松集落での日常で話される「ことば（話しことば）」

久松でも、他の琉球諸語に関わる地域と同様に、明治期の言語政策による「方言撲滅」運動や、学校での「標準語の日本語」教育の強化、また本土復帰前の沖縄県の教員たちが日本に復帰することを想定した日本語教育の強化により、地域のことばが次第に話されなくなったという経緯がある（Fujita-Round 2022, Ishihara et al. 2019）。

学校で日本語を学び、本土復帰前の1960年ごろまでは、それでも久松では、家庭内言語は家族全員がみゃーくふつ（宮古語）を話していたという。これは、1964年に松原自治会長だった仲間豊吉さんがお話ししてくださったことに基づいている。ここで紹介したいのだが、仲間豊吉さんは自治会長として、1世帯ごとに地域を回り、1枚1枚の台帳に家族構成や年齢、住所の変更などを手書きで記録をした1964年1月31日に住民登録実態調査をご自身で行なっている。この調査記録から、つまり、1960年ごろは、ほとんどの人が家庭ではみゃーくふつ、学校では日本語を話す日常生活を送っていた、バイリンガルだったということがわかる。

現在では、久松の中でも昔ながらの久松集落のみゃーくふつを話す人は、80歳、90歳代になり、70歳以下でも話せる人はいるものの、家庭内の家族全員がみゃーくふつで話すということはなく、40歳以下は聞いてもわからない人が大半となっている。

久松で話されるみゃーくふつは、発音が他の地域と比べて独特だといわれる。久松のみゃーくふつに興味がある人にとっては、発音に関しては、久松出身のシンガーソングライターの「下地イサム」さんが、久松の宮古語で歌っている曲を聴くとその特徴がわかるだろう。下地イサムさんの宮古語の歌は、イサムさんのホームページ（<https://isamu.arize.jp>）の中に視聴ができるページがあるのでお勧めしておく。

### 3) 久松の人口

2021年の宮古島市の久松の人口は約1,000人である。また、仲間豊吉さんが調査をした1964年(昭和39年)は、久松の中で2つに区分された松原地区と久貝地区にはそれぞれ現在の倍以上の人口があったと言う。2001年に松原信勝さんが書かれた私家版の本によると、1960年には久貝1,442人、松原2,110人の人口であったといい、つまり久貝と松原を合わせた当時の久松の人口は3,552人とあり、現在の3.5倍の規模だったようである。

2015年に宮古島と伊良部島・下地島を結ぶ「伊良部大橋」が開通され、宮古島側の大橋は久松に繋がられていることから、人の行き来が増え、久松集落には新しく建てられた住宅などに宮古島市の他地域からも移動があったり、観光客の泊まる施設が増えたりした。近年、漁港近くの昔ながらの久貝や松原の姿は、サトウキビ畑が住宅やホテルになり、変化し続けている。

家庭内で話されなくなって久しく、また、先述したように、現在、久松出身ではない住民が増えていることから、今後の久松でのみゃーくふつに関しては、学校で「言語継承(language transmission)」ができないかと、自治会の方々や学校の先生方と協働しながら、久松のこぼれを残す努力が小さいながらも、実践されている。久松での宮古語の活性化においては、2019年に久松小学校で藤田ラウンドが小学校の先生や映像アーティストの方とビデオワークショップを総合学習の時間を使って行った。その教育実践の分析をした時に、小学生でもしりとり遊びの中で負けられない場面で、「ん」から始まるみゃーくふつを使い、おばあちゃんたちに言われたみゃーくふつを耳で聞いて、それをいざという場合に使うことができることがわかった。(英文論文 <https://www.mdpi.com/2226-471X/8/1/4>)。まだ、完全に消えてはいないこと、また、言語的にどのようなレベルや形で残すかは今後の努力にかかっているが、再活性化には間に合うということが示唆された。

参考文献：

- Fujita-Round, S. (2022) 'Language Communities of the Southern Ryukyus: Miyako, Yaeyama, and Yonaguni', in John C. Maher (ed.) "Community Languages in Japan", Oxford: Oxford University Press, 51-58.
- Fujita-Round, S. (2023) 'Language revitalization and the classroom: video workshops at an elementary school in Miyakojima' , Languages, 8, 4, <https://doi.org/10.3390/languages8010004>, 1-19.
- Ishihara, Masahide, Katsuyuki Miyahara, Gijs van der Lubbe, and Patrick Heinrich. (2019) 'Ryukyuan Sociolinguistics', in P. Heinrich and Y. Ohara (eds.) "Handbook of Japanese Sociolinguistics", London and New York: Routledge, 25–42.
- 松原信勝 (2001) 『野崎邑 歴史と暮らし』 みえばし印刷・出版部 (私家版)
- 宮古島市教育委員会編 (2018) 『綾道あやんつ --- 平良南 / 松原・久貝コース』  
<https://miyakojimabunkazai.jp/download3588/>
- 宮古島市教育委員会編 (2012) 『みやこの歴史 --- 宮古島市史第一巻通史編』  
宮古島市教育委員会
- 下地イサムホームページ <https://isamu.arize.jp>

番号	日本語	方言(読み上げ用)	備考・メモ
1	頭(あたま)	かなます	
2	髪の毛(かみのけ)	からず	
3	旋毛(つむじ)	まぎ	
4	雲脂(ふけ)	ふき	
5	白髪(しらが)	すさぎ	
6	目(め)	みー	
7	眉(まゆ)	まゆ	
8	額(ひたい)	ふたい	
9	鼻(はな)	ばな	
10	鼻血(はなち)	ばなづ	
11	耳(みみ)	みん	
12	口(くち)	ふつ	
13	唇(くちびる)	すば	
14	舌(した)	すだ	
15	歯(は)	ばー	
16	歯茎(はぐき)	ばす	
17	顎(あご)	あぐ	
18	髭(ひげ)	ずぎ	
19	毛(け)	びうぎう	
20	面(かお)	みばな	
21	首(くび)	ぬどう	
22	肩(かた)	かたむす	
23	胸(むね)	みふつ	
24	肋骨(あばらぼね)	あぶらぶに	
25	乳(ちち)	つず	
26	腹(はら)	ばた	
27	背中(せなか)	くさみ	
28	脇の下(わきのした)	ばずだな	
29	肝(きも)	つむ	
30	臍(へそ)	んーぶ	
31	腰(こし)	くすう	
32	尻(しり)	ちびたず	
33	肛門(こうもん)	ちびぬん	
34	手(て)	ていー	
35	腕(うで)	うでい	
36	力(ちから)	たや	
37	拳(げんこつ)	つくすん	
38	筋(すじ)	すず	
39	指(ゆび)	ういび	
40	爪(つめ)	つみ	
41	足(あし)	ばず	
42	腿(もも)	むむに	
43	股(また)	また	
44	膝(ひざ)	つぐす	
45	踝(くるぶし)	あまんぶに	
46	脛(すね)	からすぶに	
47	ふくら脛(はぎ)	くーうあ	
48	踵(かかと)	あどう	
49	体(からだ)	どう	
50	背丈(せたけ)	ぶどう	
51	骨(ほね)	ぶに	
52	皮(かわ)	かー	
53	ほくろ	あざ	
54	涙(なみだ)	なだ	

55	声(こえ)	くい	
56	息(いき)	いず	
57	咳(せき)	いさぎ	
58	唾(つば)	とうふあぎ°/とうふあつう	
59	欠伸(あくび)	あふぎ	
60	涎(よだれ)	ゆだず	
61	屁(へ)	ぴー	
62	糞(くそ)	ふず	
63	尿(にょう)	ゆばず	
64	おてき	ぬばた	
65	たんこぶ	こぶ	
66	汗(あせ)	あし	
67	垢(あか)	あか	
68	垢(あか)	なば	
69	怪我(けが)	やまし	
70	病氣(びょうき)	やみい	
71	病氣(びょうき)	やん	
72	血(ち)	あかつ	
73	傷(きず)	すばがす	
74	薬(くすり)	ふすうず	
75	灸(きゅう)	やつ	
76	命(いのち)	んぬつう	
77	面(つら)	みばなのつら	
78	膿(うみ・のう)	ぬばた	
79	膿(うみ・のう)	あかにー	
80	鞞丸(こうがん)	たに	
81	木(き)	きー	
82	葉(は)	きーぬばー	
83	枝(えだ)	ゆだ	
84	梢(こずえ)	きぬゆだ	
85	実(み)	みー	
86	根(ね)	にー	
87	草(くさ)	ふさ	
88	花(はな)	ばな	
89	種(たね)	たにい	
90	苗(なえ)	ない	
91	穂(ほ)	ぷー	
92	米(こめ)	まーず	
93	麦(むぎ)	むぐずう	
94	麦わら(むぎわら)	むぎわら	
95	茅(かや)	かや	
96	粟(あわ)	あー	
97	芋(いも)	んー	
98	芋(いも)	むう	
99	豆(まめ)	まみい	
100	蓬(よもぎ)	やつふさ	
101	菜(な)	なーずうー	
102	大根(だいこん)	うぶに	
103	冬瓜(とうがん)	すーうう	
104	南瓜(かぼちゃ)	なんこう	
105	へちま	なべらー	
106	萹(にら)	みっぎ	
107	とうがらし	くーすう	
108	苦瓜(にがうり)	ごーら	
109	胡麻(ごま)	ごま	

110	蘇鉄(そてつ)	そてつ	
111	松(まつ)	まつ	
112	竹(たけ)	たき	
113	桑(くわ)	ばんつう	
114	薄(すすき)	ばらぶずう	
115	くばの葉(びろう樹)	くば	
116	蜜柑(みかん)	ふにずう	
117	茎(くき)	ふぐ	
118	あおさ	あーさ	
119	もずく	すぬずう	
120	藻(も)	むー	
121	砂糖黍の先端	ばらぶずう	
122	砂糖黍の先端	ばらぶ	
123	福木(ふくぎ)	ふくぎ	
124	つのまた	うるー	
125	ばんしろう	ばんちきろー	
126	ばんしろう	ばなくー	
127	あだん	あだん	
128	がじゅまる	がざんぎー	
129	がじゅまる	がざまるぬきー	
130	棘(とげ)	とうぎや	
131	烏賊(いか)	いきや	
132	蛸(たこ)	たくう	
133	雲丹(うに)	かずさ	
134	雲丹の身(うにのみ)	かずさぬみーずう	
135	貝(かい)	しな	
136	亀(かめ)	かみい	
137	蟹(かに)	かん	
138	魚(さかな)	っず	
139	鱗(うろこ)	いすず	
140	鰻(うなぎ)	うなぐ	
141	鰹(かつお)	ちやちゆう	
142	飛魚(とびうお)	とうびゅー	
143	鱻(ふか)	ふか	
144	鮫(さめ)	さば	
145	やどかり	あまん	
146	牛(うし)	うすう	
147	馬(うま)	ぬーま	
148	山羊(やぎ)	ぴんざ	
149	豚(ぶた)	うあー	
150	角(つの)	つぬ	
151	犬(いぬ)	いん	
152	猫(ねこ)	まゆ	
153	鼠(ねずみ)	ゆむぬ	
154	尾(お)	ずうー	
155	虫(むし)	むすう	
156	蟻(あり)	あかーずう	
157	蚊(か)	がざん	
158	蜘蛛(くも)	くも	
159	蜘蛛の巣(くものす)	くものす	
160	蝸牛(かたつむり)	んーな	
161	蛙(かえる)	ふなた	
162	蜂(はち)	ぱつう	
163	蠅(はえ)	ぱーずう	
164	蛆(うじ)	うじ	

165	蚤(のみ)	ぬん	
166	百足(むかで)	んかじい	
167	かまきり	さーとうー	
168	蜻蛉(とんぼ)	ういーず	
169	ばった	かた	
170	蝉(せみ)	がーらすぶう	
171	鳥(とり)	とうず	
172	鶏冠(とさか)	ぴきどず	
173	雀(すずめ)	ましゃ	
174	鳩(はと)	ぱとう んーばとう	
175	烏(からす)	がらさ	
176	鶉(うずら)	うじゃ	
177	鷹(たか)	さしば	
178	卵(たまご)	とうなか	
179	羽(はね)	ぱに	
180	空(そら)	ていん	
181	太陽(たいよう)	ていだ	
182	光(ひかり)	ぴっかずう	
183	水(みず)	みず	
184	山(やま)	やま	
185	川(かわ)	かー	
186	橋(はし)	ぱすう	
187	丘(おか)	んみい	
188	土・地面(つち・じめん)	ずうー	
189	星(ほし)	ぷす	
190	月(つき)	つくうす	
191	雲(くも)	ふうむ	
192	霧(きり)	きり	
193	露(つゆ)	つずう	
194	雨(あめ)	あみ	
195	風(かぜ)	かじ	
196	竜巻(たつまき)	いのー	
197	稲光(いなびかり)	いなびゆかず	
198	地震(じしん)	ない	
199	虹(にじ)	ていんばう	
200	明かり(あかり)	あかずう	
201	雷(かみなり)	かんとうゆん	
202	潮(しお)	すーう ふうず	
203	煙(けむり)	きぶす	
204	浅瀬(あさせ)	ぴしい あさはま	
205	遠浅(とおあさ)	あがた	
206	洞窟(どうくつ)	どうくつ	
207	海(うみ)	いん	
208	水溜り(みずたまり)	みずたまず	
209	波(なみ)	なん	
210	泡(あわ)	あわ	
211	島(しま)	すまあ	
212	浜(はま)	ぱまあ	
213	珊瑚礁(さんごしょう)	いのー	
214	砂(すな)	んなぐ	
215	石(いし)	いず	
216	溝(みぞ)	んむず	
217	畦道(あぜみち)	んつうばたあ	
218	畑(はたけ)	ぱり	
219	野(の)	ぬー	

220	草原(くさはら)	ぬー	
221	道(みち)	んつ	
222	崖(がけ)	がき	
223	坂(さか)	さかま	
224	頂上(てっぺん)	わーび	
225	東(ひがし)	あがず	
226	東風(ひがしかぜ)	あがずうかじい	
227	北(きた)	んぬす	
228	北風(きたかぜ)	ういかじ	
229	西(にし)	いすう	
230	西風(にしかぜ)	いすうかじい	
231	南(みなみ)	ぱい	
232	南風(みなみかぜ)	ぱいかじい	
233	嶺(みね)	んみい	
234	右(みぎ)	んぐずう	
235	左(ひだり)	ぴすうだずう	
236	前(まえ)	まふけ	
237	後ろ(うしろ)	ちび	
238	跡(あと)	あとう	
239	横(よこ)	ゆかーら	
240	上(うえ)	わーび	
241	下(した)	すたーら	
242	中(なか)	んなか	
243	底(そこ)	ずく	
244	内(うち)	なか	
245	外(そと)	ふかず	
246	奥(おく)	なかー	
247	角(かど)	かどう	
248	傍(そば)	ゆかーら	
249	隣(となり)	とうなずう	
250	今日(きょう)	きゆう	
251	昨日(きのう)	つうぬ	
252	一昨日(おととい)	ぶとうとうずう	
253	明日(あした)	あつつあ	
254	明後日(あさって)	あさってい	
255	明明後日(しあさって)	ゆーなか	
256	今年(ことし)	くとうす	
257	去年(きょねん)	くずう	
258	来年(らいねん)	やーに	
259	再来年(さらいねん)	さなり	
260	今(いま)	んなま	
261	昔(むかし)	んきやーん	
262	朝(あさ)	すとうむてい	
263	昼(ひる)	ぴいすま	
264	夕方(ゆうがた)	ゆさらび	
265	夜(よる)	ゆにやん	
266	夜中(よなか)	ゆなか	
267	暁(あかつき)	しゃーか	
268	暇(ひま)	まどう	
269	時(とき)	とうくすつ	
270	年(とし)	とうす	
271	暦(こよみ)	くゆん	
272	うりずん(3-4月)	うりずん	
273	着物(きもの)	つうん	
274	袖(そで)	すてい	

275	帯(おび)	すふうぐう	
276	紐(ひも)	な一	
277	足袋(たび)	たびずう	
278	下駄(げた)	あつつあ	
279	草履(ぞうり)	さば	
280	緒(お)	ふう一	
281	表(おもて)	うむてい	
282	綾, 模様(あや)	あや	
283	手ぬぐい	さずう	
284	湯(ゆ)	ゆう	
285	茶(ちゃ)	つあ一	
286	飯(めし)	ます	
287	粥(かゆ)	ゆう	
288	餅(もち)	むつつ	
289	雑炊(ぞうすい)	ずーします	
290	味噌(みそ)	んすう	
291	汁(しる)	んすうすう	
292	塩(しお)	ま一す	
293	塩辛い(しおからい)	すくら一すくら一	
294	砂糖(さとう)	さた	
295	甘い(あまい)	あずま一あずま	
296	砂糖黍(さとうきび)	ふう一ぐずう	
297	粕(かす)	かす	
298	酒(さけ)	さきい	
299	黴(かび)	かびずう	
300	麴(こうじ)	こ一ず	
301	粒(つぶ)	つぶ	
302	糠(ぬか)	ぬか	
303	にんにく	ぴいず	
304	芽(め)	み一	
305	くわすいも	むずやい	
306	肉(にく)	し一す	
307	油(あぶら)	あつうあ	
308	天ぷら(てんぷら)	ぱんびん	
309	灰(はい)	からばず	
310	匂い(におい)	かぎ	
311	味(あじ)	あずう	
312	料理(りょうり)	かていむぬ	
313	ご飯(ごはん)	ま一ずう	
314	食事(しょくじ)	むぬふあい	
315	朝食(あさめし)	あさむぬふあい	
316	昼食(ひるめし)	あしゆふあい	
317	夕食(ゆうめし)	ゆずふあい	
318	食べる	ふあい	
319	食べ物(たべもの)	むぬふあい	
320	家(いえ)	や一	
321	母屋(おもや)	や一むとう	
322	台所(だいどころ)	なかぎ一 なかざんき	
323	天井(てんじょう)	ていんぞう一	
324	床(ゆか)	ゆか	
325	棚(たな)	たな	
326	竈(かまど)	んかま	
327	いろり	ずじゆ一	
328	戸(と)	やどう	
329	板(いた)	いっつあ一	

330	節(ふし)	ふし	
331	穴(あな)	あな	
332	柱(はしら)	ばら	
333	釘(くぎ)	ふぐずう	
334	瓦(かわら)	かーら	
335	便所(べんじょ)	ふず <sup>o</sup>	
336	垣(かき)	いすがくう	
337	庭(にわ)	みなか	
338	井戸(いど)	かー	
339	墓(はか)	ばか	
340	埃(ほこり)	ふきい	
341	門(もん)	ぞー つんぶ	
342	縄(なわ)	なー	
343	袋(ふくろ)	ふくる	
344	綱(つな)	なー	
345	荷(に)	にー	
346	皿(さら)	さら	
347	椀(わん)	まかずう	
348	茶碗(ちやわん)	つあばん	
349	鉢(はち)	ぱつう	
350	瓶(かめ)	かみい	
351	水瓶(みずがめ)	かみい	
352	桶(おけ)	たぐう	
353	水桶(みずおけ)	みずぬんたぐう	
354	鹽(たらい)	たらずう	
355	ひしゃく	さし	
356	釜(かま)	ばがま	
357	煤(すす・鍋に付く汚れ)	なびいびんく	
358	しゃもじ	きな	
359	急須・鉄瓶(きゅうす)	つうーか	
360	箸(はし)	んみすう	
361	包丁(ほうちょう)	かたな	
362	まな板(いた)	まなつあ	
363	臼(うす)	うすう	
364	杵(きね)	んなつく	
365	斧(おの)	ゆつう	
366	鋸(のこ)	ぬくぐすう	
367	鑿(のみ)	ぬん	
368	錐(きり)	きり	
369	箱(はこ)	ぱく	
370	筆(ふで)	ふてい	
371	紙(かみ)	かびずう	
372	鋏(はさみ)	ぱさん	
373	鏡(かがみ)	かがん	
374	櫛(くし)	ふす	
375	枕(まくら)	まつふあ	
376	箒(ほうき)	ぽーく	
377	竿(さお)	そー	
378	杖(つえ)	ぐしゃん	
379	笠・傘(かさ)	さな	
380	針(はり)	ペーず	
381	糸(いと)	ぬーじゅー	
382	煙管(きせる)	きしずう	
383	金(かね)(金属・お金)	かにい	
384	三味線(しゃみせん)	さんしん	

385	船(ふね)	ふに	
386	帆(ほ)	ふー	
387	櫂(舟のカイ)	ざっく	
388	網(あみ)	あん	
389	槍(やり)	んぎゃん	
390	漁り(いさり)	いざずう	
391	松明(たいまつ)(いさりに使用)	いざずうぶら	
392	鍬(くわ)	ふうあつう	
393	鋤(牛にひかすすき)	すくすう	
394	鋤(すき)	すくすう	
395	鎌(かま)	うざあら	
396	産(ごぎ)	むすう	
397	篋(へら)	ぴら	
398	笊(ざる)	そーき	
399	籠(かご)	ばーき	
400	桶座(頭上運搬用)	かふす	
401	もっこ	つんだーら	
402	俵(たわら)	たーら	
403	薪(たきぎ)	たむぬう	
404	かんざし	ぐすっば	
405	人(ひと)	ぴいとう	
406	親(おや)	うや	
407	子(こ)	ふふあ	
408	子供(こども)	ふふあがま	
409	長男(ちやうなん)	うぶあーざ	
410	二男(じなん)	ずうなん	
411	長女(ちやうじよ)	うぶあんが	
412	末っ子(すえっこ)	なすきしゃ	
413	親子(おやこ)	うやふふあ	
414	孫(まご)	んまが	
415	父(おとうさん)	うや	
416	母(おかあさん)	あに	
417	兄(おにいさん)	あにすぎ	
418	姉(おねえさん)	あんが	
419	弟(おとうと)	うとうとう	
420	妹(いもうと)	うとうとう	
421	祖父(おじいさん)	うや	
422	祖母(おばあさん)	あーま	
423	夫(おっと)	ばがびきどうん	
424	妻(つま)	ばがみどうん	
425	夫婦(ふうふ)	みゆーとうら	
426	叔父(おじ)	ぶざ	
427	叔母(おば)	ぶば	
428	甥(おい)姪(めい)	みゆーず	
429	従兄弟(いとこ)	いつふう	
430	婿(むこ)	むくう	
431	家族(かぞく)	やーでいー	
432	親戚(しんせき)	うやくう	
433	男(おとこ)	びきどうん	
434	女(おんな)	みどうん	
435	目上(めうえ)	すぎあ	
436	目下(めした)	うとうとう	
437	青年(せいねん)	しいーにん	
438	大工(だいく)	さやふ	
439	友達(ともだち)	どうす	

440	娘(おすめ)	みどうんふふあ	
441	私(わたし)	ばん	
442	私達(わたしたち)	ばんたー	
443	あなた	ううあ	
444	あなたたち	ううあたー	
445	皆(みな)	んーなあ	
446	おじさんたち	ぶざたー	
447	老人(ろうじん)	ういびとう	
448	畑作業(はたけさぎよう)	ぱりすぐとう	
449	旅(たび)	たびずう	
450	お祝い(おいわい)	やーずう	
451	結婚(けっこん)	ささぎ	
452	喧嘩(けんか)	あいどう	
453	相互扶助(そうごふじよ)	ゆず	
454	一つ(ひとつ)	びていーつう	
455	二つ(ふたつ)	ふたーつう	
456	三つ(みっつ)	みーつう	
457	四つ(よっつ)	ゆーつう	
458	五つ(いつつ)	いつつう	
459	六つ(むっつ)	むーつう	
460	七つ(ななつ)	ななつう	
461	八つ(やっつ)	やーつう	
462	九つ(このつ)	くくぬつう	
463	十(とお)	とー	
464	一人(ひとり)	たふけー	
465	二人(ふたり)	ふたーずう	
466	三人(さんにん)	んつあーずう	
467	四人(よにん)	ゆたーずう	
468	五人(ごにん)	いつぬびつう	
469	六人(ろくにん)	んーぬびつう	
470	七人(しちにん)	ななぬびつう	
471	八人(はちにん)	やーぬびつう	
472	九人(くにん)	くうぬつぬびつう	
473	十人(じゅうにん)	とうーぬびつう	
474	いくら	いすかあ	
475	いつ	いつ	
476	だれ	たー	
477	どこ	んざあ	
478	どれ	んじい	
479	なぜ	のーちい	
480	なに	のー	
481	いくつ	いふつ	
482	どう	のーし	
483	これ	くい	
484	それ	うい	
485	あれ	かい	
486	ここ	くま	
487	そこ	うま	
488	あそこ	かま	
489	物(もの)	むぬう	
490	色(いろ)	いるう	
491	音(おと)	うとう	
492	夢(ゆめ)	ゆみい	
493	仕事(しごと)	すぐとう	
494	心(こころ)	つうむ	

495	情け(なさけ)	なさき	
496	言葉(ことば)	ふつ	
497	歌(うた)	あーぐう	
498	踊り(おどり)	ふどうずう	
499	鼓(つづみ)	つづん	
500	休息(きゅうそく)	ゆくい	
501	魂(たましい)	たますう	
502	真似(まね)	にやーび	
503	嘘(うそ)	だらか	
504	おいしい	んまーんま	
505	やわらかい	やばーやば	
506	甘い	あずまーあずま	
507	たくさん	やまかさ	
508	しっかり	ちゅーく	
509	塩辛い	すうくらーすうくら	
510	幸せ	ふからす	
511	みかん	ふにずう	
512	じゃがいも	じゃがんー	
513	苦瓜(にがうり)	ごーら	
514	紅芋	むらさきんー	
515	人参	きーざ	
516	もやし	まみな	
517	そば	すば	
518	パパイヤ	まんじゅう	
519	黒糖	ふっさた	
520	汁物	しーむぬ	
521	シークワーサ	ゆうがまふにずう	
522	切り干し大根	さりうぶに	
523	農家	ぱりやー	
524	漁師	いんむしゃー	
525	風邪	かんぼー	
526	鶏肉	とうずうしーす	
527	お祝い(おいわい)	やーず	
528	冬至	とうんじー	
529	お金持ち	うやき	
530	石鹼(せっけん)	さっふん	

<謝辞>

藤田ラウンドの研究に協力をしてくださっている、與那覇チヨさんをはじめとする久松集落の個人の方々、砂川忠弘会長をはじめとする久松自治会の皆さま、久松青年会、宮古島市立久松小学校、久松中学校の関係者の皆さまに、改めて、感謝を申し上げます。

この冊子は、科研費基盤研究（B）「琉球諸語の活性化に向けた言語教育の実践研究：消滅危機言語から言語継承への転換」（研究代表者藤田ラウンド幸世）の研究助成を受け、印刷費を出しました。



YouTube 「久松アルバム」  
[https://youtu.be/LfVOVuj\\_xXg](https://youtu.be/LfVOVuj_xXg)



YouTube 「久松の獅子舞」  
<https://youtu.be/yrKX7LVrN4Y>



日琉諸語オンライン辞書  
<https://odjl.net>



下地イサム オフィシャル ウェブサイト  
<https://isamu.arize.jp/>

日琉諸語オンライン辞書  
<https://odjl.net>

